

国際物流シンポジウム 「アジアの中の沖縄を考える」開催!

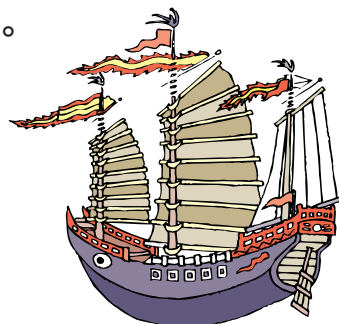
～「万国之津梁」の復活に向けた国際物流拠点の形成～

日本本土と中国・東南アジア諸国等の中間に位置する沖縄。琉球王朝時代は、この地理的な優位性を活かして中継貿易の拠点として栄えました。

産業のグローバル化が進む現在、

沖縄における国際物流のあり方をディスカッションし、

沖縄の自立型経済構築に向けた戦略を、皆様と一緒に考えます。



1. 国際物流を 取り巻く現況

沖縄は琉球王朝時代には中国や南方諸国へ日本の刀剣や扇子などを運び、日本・朝鮮へは胡麻・象牙などを運ぶという中継貿易により大いに栄えました。

一方、現在の沖縄の国際物流の状況は、どうでしょうか？

那覇港において新たにコンテナターミナルが供用し、中城湾港新港地区で流通加工型産業の集積が進むなど明るい要素もあります。しかし、直行航路が少ないため中国からの貨物が一度本土の港湾を経由してから入ってくる、あるいは沖縄の貨物が集中する那覇港周辺の道路渋滞が発生する等、沖縄県にとって好ましくない状況があるのも事実です。

2. 国際物流が 果たす役割

現在、中国をはじめとするアジア地域は世界における生産拠点、消費市場として急速に経済成長をしています。今後、日本

とアジア地域の経済交流はますます拡大し、相互依存の関係が深まると考えられています。

このような世界情勢の中、日本本土と中国・東南アジアの中間に位置する沖縄は、かつて中継貿易で栄えたように、国際物流関連産業の集積による新たな産業の振興のチャンスを迎えているのではないのでしょうか。

国際物流産業が集積することにより、今までどうしても日本本土と比べて不利であった物流コストの低減が図られ、さらに県内産業の競争力も強化されるものと思われます。

沖縄の自立型経済の構築を実現化するためには、「国際物流」は非常に重要な要素となっているのです。



沖縄の国際物流の中心『那覇港』



流通加工港湾を目指す『中城湾港』

国際物流シンポジウムの概要

日時：平成18年12月9日（土）13：30～15：30
場所：沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハ

基調講演

「アジアにおける国際物流の現状」
立命館アジア太平洋大学 汪 正仁 教授

パネルディスカッション

「沖縄における今後の国際物流戦略について」

●パネリスト

湧川善充 (株)メイクマン 代表取締役社長
瀧辺美紀 (株)ビジネスランド 代表取締役社長
汪 正仁 立命館アジア太平洋大学 教授

●コーディネーター

柏原英郎 北海道大学公共政策大学院特任教授・
(社)日本港湾協会会長

●司会

當銘直美 沖縄県広報番組「うまんちゅひろば」キャスター

参加申込

郵便番号、住所、氏名、電話番号、年齢、職業をご記入の上、
FAX・ハガキ・メールでお申込み下さい。
沖縄総合事務局開発建設部港湾計画課内 シンポジウム事務局
〒900-8530 那覇市前島2-21-7
お問い合わせ・お申し込み先
TEL：098（860）1214（平日8：30～17：15）
FAX：098（860）1000（24時間受付）
E-mail：butsuryu@ogb.cao.go.jp

3.

沖縄の
国際物流の今後
を考えるために

沖縄の経済的自立のために重要な国際物流ですが、一言で物流といってもその分野は非常に多岐にわたります。港湾・道路の整備、荷物を運ぶ海運・陸運、製品の製造業・荷主企業、さらには製品を買う皆様等様々な分野から物流は成り立っているのです。当然、これらをトータル

で考える研究も必要となってきます。従って、行政のみならず沖縄県民（産・学・官）が一体となって国際物流について考えていく必要があります。一方で、今まで述べてきたような国際物流については、重要性が高いにもかかわらず皆様の認知度が低いのが現状です。今回我々が開催する国際シンポジウムは、物流関係者のみならず広く県民の皆様に国際物流が沖縄で果たす役割の重要性を

知っていただくとともに、沖縄の国際物流、さらには自立型経済の構築について皆様と一緒に検討していく第一歩としたいと考えています。
12月9日（土）の13時30分（沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハで開催する国際物流シンポジウムに足を運び、沖縄の将来、「万国の津梁」の復活について一緒に考えてみませんか？

シンポジウムの

お申込みはこちら！



FAXやハガキ、
EメールでもOK!